

## 1. 2018 年度報告

### (1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況等－

#### ① 定員厳格化への対応

推薦指定校の選定に関するルールを整備した。今後も、継続的に行っていく。

#### ② 渡日不要外国学生入試および帰国生入試の改革

人間科学部での学びに強い意欲をもつ外国学生・帰国生を積極的に受け入れるために、渡日不要外国学生入試および帰国生入試を整理した。渡日不要外国学生入試については、2018 年度にこれを廃止した。帰国生入試については、現状の入試制度を 2021 年度に廃止すること、同年度より帰国生にも公募制学校推薦型 FACT 選抜の出願を認めることを決定した。帰国生だけでなく、留学経験のある高校生を積極的に受け入れるために、公募制学校推薦型 FACT 選抜については、出願資格の拡充を決定した。

#### ③ 一般入試の科目整理

記述式問題の導入など今後の入試改革を見据え、2021 年度より一般入試の社会科選択科目「政治経済」の廃止を決定した。

#### ④ 転課程試験出願資格の変更

通信教育課程と通学課程とのなめらかな接続をめざして、転課程(通信教育課程から通学課程へ)試験の出願資格を変更した。

#### ⑤ 2021 年度以降の入試改革に関する検討

2021 年度に導入される大学入学共通テスト、および高校の指導要領改定に向け、今後の入試改革について集中的に検討する WG(入試改革 WG)を入試検討委員会内に設置した。

### (2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況等－

#### ① カリキュラム評価

中目標の点検や整理も含めたカリキュラムの評価の検討に着手した。カリキュラム評価に関するロードマップの一部について教授会で承認を得た。

#### ② 能動的な学びを促進する授業の展開

前年度に引き続き、高度授業 TA の活用に関する支援を行った。また、カリキュラム評価・教室改修作業部会ならびに FD 研究会(後述)にて議論していたアクティブラーニング仕様教室について、100-402/403 教室の改修工事の実施として結実した。

#### ③ 恒常的な授業改善

年度中、計 5 回の FD 研究会を実施した。

#### ④ 学部から研究科への接続の強化(学部、修士課程)

学部 3 年次以上向けの大学院合併科目を増設した。

⑤ 研究科における研究倫理教育

研究倫理教育をカリキュラムとして実装するための議論を行い、2019年度から「人間科学研究倫理概論」として開講することとした。

⑥ 学部における研究倫理教育

学部初学者に対する分野横断型・討論型の研究倫理教育として「基礎ゼミ II」を新たに開講した。その成果についてFD研究会を実施し、教員間での共有化を図った。

⑦ 資格対応

教職再課程認定の申請を行い、学部・大学院ともに認定された。また、公認心理師受験資格に関連して、新規養成の対象となる入学者を迎え、その学年進行に伴うカリキュラムの詳細を公認心理師資格委員会等にて整備した。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略7、9 関連)

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況等－

① 附置研との連携による研究推進体制の再構築

(1) 2018年人総研プロジェクト研究の再改革

大型競争的研究資金獲得支援等を継続し、新たに大学院生等を含む若手研究者の育成、地域連携研究の支援を含む改革を行った。

(2) 若手育成のスキームの新設

「学振PD・DC申請連動型」と「若手グループ研究」を新設し、人間科学を指向する若手研究者育成とその支援を行った。

(3) 地域連携支援研究の新設

学術院と包括協定を締結した自治体等をベースに多様なセクターを包摂するような実装的研究やその準備などを支援する仕組みを構築した。

(4) 審査体制の強化

研究助成金に関わる採択審査における箇所外・学外研究者への審査員選定・委嘱過程で、本学研究戦略センター教員と協議し、客観性、透明性を高めるなど審査体制を強化した。

② 研究時間確保に向けた取組み

大型競争的研究を行う研究代表者の研究事務など研究遂行に伴う多様な負担を軽減するための人件費補助などを行った。

③ 海外発信の促進

国際学会誌掲載支援：研究推進部が実施している国際学会誌掲載支援スキームを、人総研研究予算を用いてさらに追加助成した。

外国人研究者招聘支援：人総研予算によるシンポジウムにおいて、旅費等を支給し、積極的に外国人研究者を招聘し、スピーカー、コメンテーターとしての参画を支援した。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略8 関連)

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

① 海外協定校との連携

- (1) 海外4大学と新たに箇所間協定を締結した。
- (2) 箇所間協定に基づく海外大学との交換留学を積極的に推進し、受入に際してeスクールのオンデマンドコンテンツを活用した。
- (3) 箇所間協定を結ぶ海外大学と共同でジョイントラボを設立し、国際共同研究を推進するための枠組みを構築した。
- (4) 留学生向け奨学金申請について、海外協定校との間で連携して対応した。
- (5) 自治体・企業と連携して、受入れ留学生のインターンシップを実施した。

② 留学促進に向けた取り組み

- (1) 国際課による海外への学生引率助成制度を活用した、1か月未満の短期海外留学を支援した。
- (2) 海外大学と連携して、初年次から留学を可能とするプログラムについて、検討した。

(5) その他

－ (1)～(4)に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

○学内外連携

① 包括協定締結

- (1) 学生派遣や受入対象である国内4機関との間で、新たに協定を締結した。
- (2) 自治体・他大学との三者による協定を締結した。

② 特色ある課題解決型地域連携

- (1) 学術院所在の自治体議会との協定に基づき、ポリシーメイキングのための人間科学という視点での議会インターンシップを実施した。
- (2) 遠方の自治体との協定に基づき、教育委員会等と連携して地域特性を考慮した教育プログラムの開発や政策提言を視野に入れた研究を支援した。

○通信教育課程

① カリキュラムの確認・改訂

- (1) スムーズなレベル進級が可能となるよう、一部必修科目を2019年度より春学期・秋学期の両学期開講に変更することを決定した。
- (2) Bコースのレベル1・2の年間制限単位数を、40単位から通学課程と同じ41単位に変更した。
- (3) 人間科学基礎科目の卒業参入上限単位数の考え方を通学課程と合わせる変更を行った。

② 理解度・満足度向上を目的とした取り組み

- (1) 低画質・中画質コンテンツを使用している授業の再収録を促進した。
- (2) 2カメラを仕様した授業収録を一部実施した。

## 2. 2019 年度計画

### (1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

#### －2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

- ① 推薦指定校の選定に関するルール整備  
定員厳格化に対応するために、引き続き、推薦指定校の選定に関するルールを整備する。
- ② 大学入学共通テストの利用方法に関する検討  
大学入学共通テストの利用方法について、引き続き検討を行う。
- ③ 英語外部試験の活用に関する検討  
英語 4 技能の評価に向けて英語外部試験の活用方法について具体的な検討を進める。
- ④ 2025 年度一般入試の改革に向けた検討  
高校の指導要領改定に向け、また一般入試を大学入学後の学びの前段階に位置づけることをめざして、一般入試の抜本的な改革を検討する。

### (2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

#### －グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

- ① カリキュラム評価  
ロードマップに従い、シラバスの現状を確認しながら大目標・中目標の評価・修正を実施する。
- ② 能動的な学びを促進する授業の展開  
高度授業 TA・授業 TA・LA 等の利用を支援しつつ、その効果的な活用手法について FD 研究会等の場を設けて検討する。
- ③ 恒常的な授業改善  
FD 研究会を実施し、教員相互の優れた実践について共有を図る。
- ④ 学部における研究倫理教育  
「基礎ゼミ II」の運用方法について、その実施状況を見ながら検討を行い、必要に応じて翌年度に向けた改善を行う。
- ⑤ 学部から研究科への接続の強化  
学部-研究科の一貫教育プログラム (4+1 もしくは 3+2) について検討を始める。
- ⑥ 研究科における研究倫理教育  
「人間科学研究倫理概論」の運用方法について、その実施状況を見ながら検討を行い必要に応じて翌年度に向けた改善を行う。
- ⑦ 学位論文審査体制の点検  
研究科学位論文審査等作業部会を設置し、これまでに行ってきた研究科における学位論文の審査のあり方、それに付随する指導のあり方についてさらに改善に向けた検討を進めていく。
- ⑧ カリキュラムの国際化  
学生が留学しやすい環境 (授業のクォーター化を含む) について検討し、必要に応じて整備を行う。

### (3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画－

① 附置研との連携による研究推進体制の再構築

(1) 若手グループ研究の推進

3人以上で構成された人間科学を指向した若手グループ研究を促進する。

(2) 地域連携支援研究の推進

本学研究戦略センターと協働しながら、所沢市をベースとした社会実装を指向する大型研究資金の獲得と研究プラットフォーム造りを促進する。

(3) 審査体制の強化と研究者ネットワークの拡大

本学研究戦略センターとの連携によって、審査員選定のみならず、研究者ネットワークの拡大と構築について検討する。

② 研究時間確保に向けた取組み

大型研究費獲得支援と授業負担軽減についてさらに検討を進める。

③ 海外発信の促進

国際誌掲載支援およびシンポジウムに伴う外国人研究者の招聘支援を継続し、海外発信を促進する。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略8 関連)

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等－

① 海外協定校との連携

(1) 箇所間協定を締結する大学と交換留学および研究者交流を促進する。

(2) 箇所間協定校との共同で設立したジョイントラボを活用し、緊密な連携を図り、それぞれの国において大型国際共同研究プロジェクトの申請を積極的に支援し、国際共同研究の推進を検討する。

(3) 海外進出する日本企業と海外協定校と連携して、インターンシッププログラムの開発を検討する。

② 留学促進に向けた取組み

(1) 国際課による海外への学生引率助成制度を活用して、1か月未満の短期海外留学をさらに促進する。

(2) 海外大学と連携して、初年次から留学を可能とするプログラム開発を推進する。

(5) その他

－(1)～(4)に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

○学内外連携

① 包括協定に人材育成・共同研究

包括的協定を締結する自治体や海外大学との連携を強化し、学生交流を含めた人材育成や共同研究を推進する。

② 社会実装を目指した連携

学内の研究戦略センターと緊密に連携し、包括協定を結ぶ所沢市をフィールドにした研究成果の社会実装を目指して、地域課題解決指向の産学官民における広範囲の連携

強化と共同研究の基盤作りを進める。

○通信教育課程

①カリキュラムの確認・改訂

他の必修科目についても、春学期・秋学期の両学期開講を検討する。

②理解度・満足度向上を目的とした取り組み

さらに高画質化および2カメラによる収録を促進する。

以上